

Kakigoriと宮本武蔵

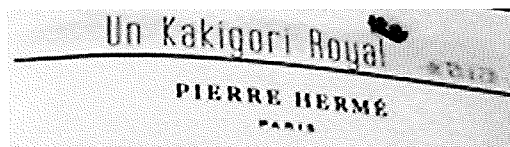
KARAOKEを始め日本生まれの言語がローマ字ではあるが世界共通言語になっているのは日本人として嬉しいものだ。何か暖かい話題をと考えたのだが、「Kakigori」が頭から離れないので、紙面を汚す失礼をご容赦いただけたら幸いである。

パリコレクションに誘われたので、20年振りにパリを訪れた。初めの宿泊ホテル名を忘れていたので記憶を頼りにそのホテルを目指してみた。そのホテル前の道路で20年前の記憶が少し蘇り、ホテルの中庭が特徴的だったことを思い出したので、中庭に案内してもらった。中庭からの眺めで当時を思い出した。やはりあの時のホテルだった。中庭の椅子に座りメニュー表を見ると、ローマ字でKAKIGORI（小文字）と書かれ、ピエール・エルメの名前もあった。マカロンで有名なあのエルメである。ピエール・エルメといえば、女性のみならずとも甘党やスイーツ好きには今さらながらの話かもしれないが、エルメがなぜ、KAKIGORIなのか、ジャポニズムの再来なのだろうかなどと、その謎に興味を湧いた。

話題は急変するが、パリ滞在中は宿泊したホテルレストランで朝食をとった。オムレツが定番らしかったので注文したが、卵の厚さが日本で食べるのと大違いで、ナイフが無い

と切れなかった。オムレツ用の卵は4個も使うということを後で聞かされ納得できた。レストランのウェイターは還暦前と思わしき伯父さんウェイターだった。食器をセッティングする際にヒョナはずみでナイフを落とした。よくある話ではあるが、そこからが一味違った。ナイフを床から取るなり、「ご無礼致した！」とナイフとフォークを二刀流に見立てて「宮本武蔵でござる」と流ちょうな日本語でしゃべる。連れ添いに向かって「お姫様、ご容赦くださいませ」の一言に、連れが今までにない笑顔を見せたので、KAKIGORIを思い出して「甘んじて許そう」の一言に、「かしこまりましたー」には笑いをこえて驚きを覚えた。

明年が、会員・ご家族の皆様にも、ご多幸あらんことを祈念して、「これにて、御免！」。



(久保谷 康夫)